「シロンスク」民族合唱舞踊団オンラインコンサート～2021/09/22 公開

〈シロンスク〉との旅 を観て

村田譲、池田光良、氏間多伊子
小川真生、越野誠、中宮典子

1.「ポロネーズとマズール」マズルカのステップというのは、フォークダンスのような楽しさであるのだろうか
2.「野ばら」シューベルトだけれども、聞いた覚えがあるというのは妙に懐かしく思える
3.「ハンガリー舞曲」迫力のある入場シーン、例えようもなくアクティブだ
4.「グリーンスリーブス」アイルランド民謡・合唱、中央の男性の声が素敵だ。こういうときは確かに民族衣装の方が良いね
5.「アイリッシュダンス」足の動きが繊細で、黒いタイツがまた足を細く見せる。しかしつま先、トウトウトウ。テンポもあって踊るのがきつそう
6.「サ・セ・パリ」パリの小道とのことであるが、落ち着いた雰囲気
7.「ハッシドの踊り」導入部が面白い、男性のネクタイ(?)を持って踊るんかい？四角く帽子のうえに持ち上げて舞う。密室と成ったり、壁と成ったり。あるようでないような絆のよう
8.「アテネ」合唱、アテネのイメージが良く分からないが、明るくておおらかなのかなぁ～
9.「ゾルバのダンス」ゾルバというと猫のイメージだ。独特の長い節回しが楽しい=上 背景画像=
10.「オー・ソレ・ミオ」男性2名、なんというたおやかさ
11.「ラ・モンタナラ」合唱、男のみ18名、まあ、堂々と
12a.「ダンス、ダンス」(スロヴァキア民謡)まずは男女の歌声、こぶしが効いているけど、踊らないのォ？
12.「スロヴァキアのダンス」男女ペアで踊ることが多いのだが、結構激しい踊り。まあ、振付師の考え方だろうけれど
13.「ロマの踊り」2人の女を馬に見立てて、残りは馬車で行く。スカーフ1枚の使い方、長く薄いドレスの見事な扱い方が綺麗
14.「クヤヴィアックとオベレック」出だしが特徴的。大胆なリフトはよく見るが、男性が女性の腰を支点に飛ぶという踊り方は見たことないな。女性に抱えられての逆立ち的なのも、すごいな

15.「クラコヴィアック」すごく楽し気。女性のスカート回ると提灯の傘のようになるのね
16.「ファイナル曲」腰を曲げてのサヨウナラのお別れから始まる、後ろから幾重にも重ねるような厚みを醸し出す。非常に明るい大団円である

いろんな国の踊りがみられるけれど、知らない国の民謡も多い。そうはいいつつ「ゾルバ」と言われて『カモメに飛ぶことを教えた猫』のネコを思い出す。ついでに「ゾルバダンス」も検索するとなかなか面白そうだ。色々な楽しさ、面白さに気付かされる。特に15.「クラコヴィアック」の女性のスカートの広がり方の不思議、13.「ロマの踊り」のコミカルさが好きだ。

（むらた・じょう、本会会員）

まずは踊りの際、体の軸が全くぶれない。厳しい訓練に鍛えられて体幹がしっかりしているからに違いないと感心しました。また、ヨーロッパ各地の歌と踊りからは、キェシロフスキ監督の映画『トリコロール』と同様に、ヨーロッパが繋がっていることを、さらにユダヤやロマといった被差別民族への温かい眼差しを強く感じることができました。

最も優れていると思ったのは、No.1，14，15のポーランドの伝統舞踊です。これを見てポーランドのことが少しは分ったような気持ちになりました。全体的に優れた歌唱力や振り付け、伝統に根差した衣装も含め、素晴らしい出来だったと思います。

今後とも貴舞踊団の国境を飛び越えるような幅広い活動が世界平和に貢献されることを願ってやみません。

（いけだ・みつよし、本会新会員）

ふと日舞で舞台に立っていた頃が蘇ってきました。日本舞踊の場合、大別して舞（まい）、踊（おどり）に分けられ、歌舞伎舞踊ができてから振（ふり）という要素も加わりました。また、着物衣装の独特の色合せや文様等は世界でも高く評価され人気があります。

この度のオンライン「〈シロンスク〉との旅」は美しい動きとともに衣装、ヘアスタイルやメイクをより近く画面で確認でき、従来の広いダイナミックな舞台とはまた異なる楽しさを発見。さらに、多様性をテーマにしたヨーロッパ諸国を旅するような構成、聞き覚えのある曲の数々。

舞台芸術には過酷なパンデミックのなか、愛するポーランドからの贈り物は、昏睡状態の心を揺さぶる刺激となりました。

（うじま・たいこ、本会会員）

https://youtu.be/Ws12P4A0CDk

美しく華やかな色彩と音楽、極上の歌声とダンスに果てしないパワーを感じ、とびきりのひと時を享受しました。

長い歴史に育まれたポーランドを代表するダンス3曲。最初の「ポロネーズとマズール」では凛々しい将校と優雅な貴婦人の洗練された美しい動きに魅了されました。最後の「クヤヴィヤクとオベレック」「クラコヴィアック」は伝統的な民族衣装で身のこなしの全てが美しく、見せ場が山盛りの素晴らしい振付も印象的でした。後者に登場するタタール人の踊りのダイナミックな跳躍に驚き、合唱団の歌声や女声のソロも入って高揚感が伝わってきました。

「ハンガリー舞曲」をダンスで観るのは初めてでした。自由自在に表現できる才能に驚きながら、メロディに乗ったダンスを楽しみました。「アイリッシュダンス」も初めて観ました。ダンサーの衣装もいつもと違う印象で、楽しく美しいステップに目を奪われました。

「ハッシドの踊り」は会話をしながら登場する演出、衣装も魅力的。聴き覚えのある曲も含まれています。白い布を使ったダンスは暗示的な含みを感じました。

「スロヴァキアのダンス」は若さと躍動感に溢れ、「ロマの踊り」はスカーフを工夫して2頭の馬と馬車を作ったりコミカルな動きがあったりとユニークでした。

ギリシャの「ゾルバ」は気迫に満ちた出だしから魅了されました。男性のみで、ソロから始まり3人、9人と増えて、音楽に乗った全員の素晴らしいステップ、ソロダンサーの動きも素晴らしく、かっこよすぎです！

「野ばら」(ドイツ)「グリーンスリーブス」(アイルランド)「アテネ」(ギリシャ)「サ・セ・パリ」(フランス)「ダンス、ダンス」(スロヴァキア)「ラ・モンタナラ」「オーソレミオ」(イタリア)と素敵に歌い上げて、贅沢な旅をさせていただき幸せです。

皆様の温かい心に感謝いたします。

(おがわ・まき、フォークダンス愛好家、本会会員)

=左から=アイリッシュダンス／グリーンスリーブス／ダンス、ダンス／アテネ／ロマの踊り

感想を書くにあたり、岡上理恵著『中欧の不死鳥～ポーランド不屈の千年史』(出窓社、2019.4)を参考にさせていただきました。

冒頭から登場するポーランド将校と思われる男性と対になる女性たち。華麗な舞はエカチェリーナ率いるロシア軍による第1次ポーランド分割前の幸せなポーランドの国民性を表していると感じました。

続く「野ばら」も同様で、ブラームスのハンガリー舞曲からもその優位性と陽気さが感じられました。ブラームスはワーグナーを崇敬していて、どちらもゲルマン民族を背景に持つドイツ人であり、ポーランドはロシアの統治やドイツの占領下にあった歴史を考えると、政治に翻弄され苦しみに耐えながらも、ささやかな暮らしを家族や村の民と共有するために、生の実感やしあわせを謳歌しようとする、ポーランド国民の前向きな姿勢がここに表れていると感じられました。

日本国旗と同じ赤と白で描かれるポーランド国旗。民族衣装の様相や国旗の清々しさは、ポーランド国民を迫害から救った日本の精神に通じるものであり、親日国を表す端的な動画であると感じました。

未だポーランドを訪れたことのない私がその国民性を感じるのは可笑しいかもしれませんが、日本精神と同じ東欧における美国、それがポーランドだとこの動画で理解できました。　(こしの・まこと、本会会員)

これぞ「ポーランド」というポロネーズステップから始まった。1拍目の前の拍(弱拍)で沈み、次の1拍目(強拍)で伸び上がるのが揃って綺麗だった。今までぎこちなく膝の屈伸をしていたのだが、コツが分かった気がした。

かと思いきや Sah ein Knab' ein Röslein…と美しい歌声が響く。シューベルトの「野ばら」だ。〈シロンスク〉は合唱団としても素晴らしいことを知った。さらに「オー・ソ・レ・ミオ」の男性ソロ2人の歌声が魅力的で、ますます聴き惚れた。2曲とも懐かしくて、つられて一緒に歌ってしまった。久しぶりに歌って楽しかった。

「ハッシドの踊り」でも聞き覚えのあるメロディが。フォークダンスサークルで踊っている「ハバナギラ」(ヘブライ語の民謡)だ。この曲は東京オリンピックの新体操で金メダルを取ったイスラエルの選手も最後のリボンの演技で使っていた。イスラエルでは人気曲なのだろうか。

ポーランドのみならず、各国の歌と踊りを高水準で楽しめるなんて驚きだ。

(なかみや・のりこ、ダンス愛好家)